

コロナ禍における海外オンライン フィールドワークの実施に向けて

高槻高等学校 国際教育部 SGH推進部



2020年10月29日

文部科学省 SGH/WWL 令和2年度 連絡協議会

アウトライン

1. 本校のSGHの取り組みについて
2. これまでの経過（台湾研修とパラオフィールドワークを中心に）
3. 本年度のパラオフィールドワークについて

医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支える
グローバルリーダーの育成



1 本校のSGHの取り組みについて

◎グローバルスタディーズ

- ◆思考力
- ◆バランスの取れたグローバルマインドセット
- ◆グローバルイシュー理解
- ◆多様性への応用力

◎グローバル課題研究

- ◆グローバルヘルスへの理解
- ◆課題発見力・解決力

◎その他、プログラム

- ◆リーダーシップ
- ◆コミュニケーション力
- ◆英語運用力

2 これまでの経過 台湾研修

- 高校1年次前期においてグローバルイシューについて学んだことをもとに、課題研究にグループで取り組み、その発表の場として台湾台北市私立延平高級中学校を訪問する。
- 海外の同世代の若者と協働活動ができるグローバルマインドセットを持った人材となる機会とする。
- その他、訪問先
国立台湾大学 公共衛生学院、私立台北医学大学 公共衛生学院、
台湾進出日本企業（富士ゼロックス）、現地グローバル企業



延平高級中学発表会



台北医学大学



富士ゼロックス



国立台湾大学医学部

パラオフィールドワーク

- 高校1年次で行ったこと課題研究手法を発展的に深化させる
- 大阪大学未来戦略機構 三田 貴准教授（現 京都産業大学 国際関係学部教授）の指導・支援で実施している
- グローバルイシューについての問題発見と研究テーマ設定を比較的容易にでき、調査と資料収集の実施への協力体制
- パラオ共和国は人口2万人の国家で、全体を俯瞰しやすく、政府関係要人や住民とも直接交流がしやすく、かつて日本の委任統治時代があり親日的で、太平洋戦争に係わる歴史を共有している特徴がある

ご旅程表【平成28年11月13日(日)～11月18日(金)】

日程	都市名	時間	交通機関	行程	食事
1 11/13 (日)	関西国際空港 集合	9:00	各自	関西国際空港・4階ロカウンター前集合 搭乗手続き、日本出国手続き。 ☆航空にて預けた荷物は、パラオ空港にて受取ります。	
	関西国際空港 出発	11:05	飛行機	UA150便(ユナイテッド航空)にて空路、グアム空港へ	朝: 朝内食
	グアム国際空港 到着	15:40	飛行機	グアム空港到着後、入国手続き、乗り継ぎ手続き (待差+10時間)	夕: 各自
	グアム国際空港 出発	20:00	飛行機	UA157便(ユナイテッド航空)にて空路、パラオ空港へ	朝: 朝内食
	パラオ国際空港 到着	21:10	飛行機	パラオ空港到着後、入国手続き、荷物の受取。	
	パラオ国際空港 出発 ホテル到着	22:00 22:30	専用車	専用車にて、ホテルへ 【コロール市内:パレイシアホテル泊】	
2 11/14 (月)	コロール市内	午前	専用車	◀コロール島内観光▶	朝: ホテル
		午後		研修① Ministry of Education(教育省)訪問 研修② Ministry of Health(保健省)訪問 【コロール市内:パレイシアホテル泊】	昼: レストラン 夕: レストラン
3 11/15 (火)	コロール市内	午前	専用車	研修③ ベラウ国立病院視察	朝: ホテル
		午後		【Mindzenty High School との学校交流プログラム】 ・レセプション ・授業参加 ・ランチ ・ホームビジット ・ワークショップ 等 【コロール市内:パレイシアホテル泊】	昼: お弁当 夕: レストラン
4 11/16 (水)	コロール市内	午前	専用車	研修④ パラオ日本国大使館訪問 ホテルにて講義	朝: レストラン
		午後		【ガラルド州およびマルキョウ州でのフィールドワーク】 研修⑤ 前駐日パラオ大使 ミノルウエキ氏による講義 【コロール市内:パレイシアホテル泊】	昼: お弁当 夕: レストラン
5 11/17 (木)	コロール市内 ホテル発	午前	チャーター船	【ペリリュー島での研修】	朝: レストラン
		夕刻		< 出発まで、ホテルにて仮眠いたします >	昼: お弁当
		23:15	専用車	専用車にて、パラオ国際空港へ	夕: ホテル
6 11/18 (金)	グアム国際空港 到着 グアム国際空港 出発 グアム国際空港 出発	23:45		パラオ空港到着後、搭乗・出国手続き ※ 出国税にUS\$50必要	
		1:45	専用車	UA158便(ユナイテッド航空)にて空路、グアム国際空港へ (待差+10時間)	
		4:50	飛行機	グアム国際空港到着 入国・乗り継ぎ手続き	
6 11/18 (金)	グアム国際空港 出発 関西国際空港 到着	7:05	飛行機	UA151便(ユナイテッド航空)にて空路、関西国際空港へ	
		10:05		関西国際空港到着 入国手続き後、荷物受取り、通関後、解散 ～お疲れ様でした～	

※ご旅程表に記載の内容・時間等・便名・順序等は平成28年11月8日現在です。
航空機スケジュール・現地事情等により変更となる場合がございますので予めご了承の程お願い申し上げます。

日程表(英語版)



The Itinerary of 2nd Takatsuki High School Fieldwork Tour to Palau 2016

Day 1 / Sunday, November 13th

11:05 : To leave KANSAI for GUAM [UA150]
 15:40 : To arrive at GUAM
 19:50 : To leave GUAM for PALAU [UA157]
 21:10 : To arrive at PALAU
 22:30 : To arrive at the hotel
 Stay : At Palasia Hotel Palau (パレイシアホテル パラオ)

Day 2 / Monday, November 14th

Morning : To go sightseeing in Koror Island. (National Museum, Palau Aquarium, Koror Babeldaob Bridge, etc.)
 13:30 : <Study Session 1> Courtesy visit to the Ministry of Education
 -15:30 : Special Lecture by a government official of MOE at Palau High School
 16:00 : <Study Session 2> Meeting with the Minister of Health at Palasia Hotel Palau
 -17:30 : Special Lectures by the Minister and four directors of the Ministry of Health
 Evening : Preparation for the next day's visit to Mindzenty High School
 Stay : At Palasia Hotel Palau (パレイシアホテル パラオ)

Day 3 / Tuesday, November 15th

8:00 : To visit Palau National Hospital
 9:00 : <Main Program 1> To visit Mindzenty High School
 To Experience Lessons at Mindzenty
 Afternoon : To visit host students' houses to interview them and their families
 Evening : Preparation for the next day's field work at the State of Ngerulmud
 Stay : At Palasia Hotel Palau (パレイシアホテル パラオ)

Day 4 / Wednesday, November 16th

9:00 : <Study Session 3> Courtesy visit to the Embassy of Japan
 -10:00 : Special Lectures by the ambassador and a secretary at Palasia Hotel Palau
 10:50 : <Main Program 2> Fieldwork in Ched Village, the State of Ngerulmud
 -17:00 : To visit the Congress Capitol
 Evening : <Study Session 4> Meeting with Dr. Misero Ueki, former Ambassador of Palau
 to Japan and his short seminar
 Preparation for the next day's field work on Peleliu Island
 Stay : At Palasia Hotel Palau (パレイシアホテル パラオ)

Day 5 / Thursday, November 17th

9:00-16:00 : <Main Program 3> Visit to Peleliu Island

Day 6 / Friday, November 18th

01:45 : To leave Palau for GUAM [UA158]
 04:50 : To arrive at GUAM
 07:05 : To leave GUAM for Osaka, Japan [UA151]
 10:05 : To arrive at KANSAI Airport

高2 GA研究課題 一覧（日本語カテゴリ出席番号別）

年	組	番	文理	論題	カテゴリ別
2	1	7	文	アメリカ、パラオ、イタリアなどのうつ病対策からみた、日本における労働問題から発生するうつ病に対する意識改革、うつ病発症後のケア及び予防策	A 医療・感染症・病気
2	1	8	文	パラオの教育問題とメンタルヘルス	A 医療・感染症・病気
2	1	13	文	文化依存症候群の分類錯誤	A 医療・感染症・病気
2	1	15	文	パラオにおける医者不足の問題	A 医療・感染症・病気
2	1	17	文	メンタルヘルス問題の教育的観点からの解決法	A 医療・感染症・病気
2	1	21	文	アジア各国が抱える精神的健康問題とその対策及び障害不保持者の精神状態の調査	A 医療・感染症・病気
2	1	23	理	メンヘラの治療法	A 医療・感染症・病気
2	1	24	理	医療の観点からみた少子化対策の是非	A 医療・感染症・病気
2	1	27	理	パラオ、日本の習慣と死因の関係	A 医療・感染症・病気
2	1	29	理	パラオにおける医療従事者不足及び医療サービス・医療体制の不十分性に起因する地域医療格差関する問題	A 医療・感染症・病気
2	1	31	理	①パラオにおける労働環境と精神疾患 ②パラオにおける第二次世界大戦などによるPTSD	A 医療・感染症・病気
2	1	33	理	パラオと日本・アメリカにおける食中毒に対する違いとそこからわかる食中毒対策	A 医療・感染症・病気
2	1	42	理	熱帯病における調査方法の研究	A 医療・感染症・病気
2	1	2	文	太平洋島々に襲いかかる海面上昇	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	3	文	海洋環境の保護	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	5	文	パラオにおける環境汚染によるサンゴ礁の減少	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	10	文	地球温暖化によって引き起こされる様々な健康問題	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	14	文	太平洋島嶼国のゴミによる環境汚染	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	16	文	生態系におけるサンゴの役割	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	20	文	パラオの自然保護について	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	25	理	パラオのサンゴ礁の保護	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	28	理	環境破壊をマイクロプラスチックゴミから考える	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	30	理	漂流ゴミによってもたらされる動物への健康被害	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	35	理	パラオにおけるゴミ処理問題と対策	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	36	理	島しょ国における、地球温暖化がもたらす環境問題、異常気象との向き合い方	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	37	理	より工業ゴミを減らせる方法	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	38	理	パラオのトイレ問題	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	39	理	サンゴ礁減少による影響	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	40	理	パラオと日本のごみ問題の比較	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	41	理	アジアにおける防災の重要性	B 自然・エネルギー・環境問題
2	1	4	文	缶詰を用いてパラオにおける高血圧を解決する ～SPAMの事例を基に～	C 食料・食文化と健康
2	1	6	文	世界の健康保険問題	C 食料・食文化と健康
2	1	9	文	海洋療法の発展のために ー観光と結び付けてー	C 食料・食文化と健康
2	1	11	文	日光浴の有用性	C 食料・食文化と健康
2	1	18	文	パラオの肥満問題 ～食生活・学校給食の改善～	C 食料・食文化と健康
2	1	19	文	パラオの社会的背景と糖尿病、その解決策	C 食料・食文化と健康
2	1	22	文	パラオでの肥満の原因と対策 ～日本との比較を通じて～	C 食料・食文化と健康
2	1	32	理	薬と食べ物の意識の違い	C 食料・食文化と健康
2	1	1	文	グローバル資本主義について -多国籍企業の拡大とそれに伴う諸問題	D 貧困・教育格差・教育問題・その他
2	1	12	文	アジアにおける貧困とその恒久的解決について	D 貧困・教育格差・教育問題・その他
2	1	26	理	発展し続ける現代社会において必要とされる能力、そして教育とは何か	D 貧困・教育格差・教育問題・その他



パラオ高校 教育省



ミンゼンティエー高校 交流



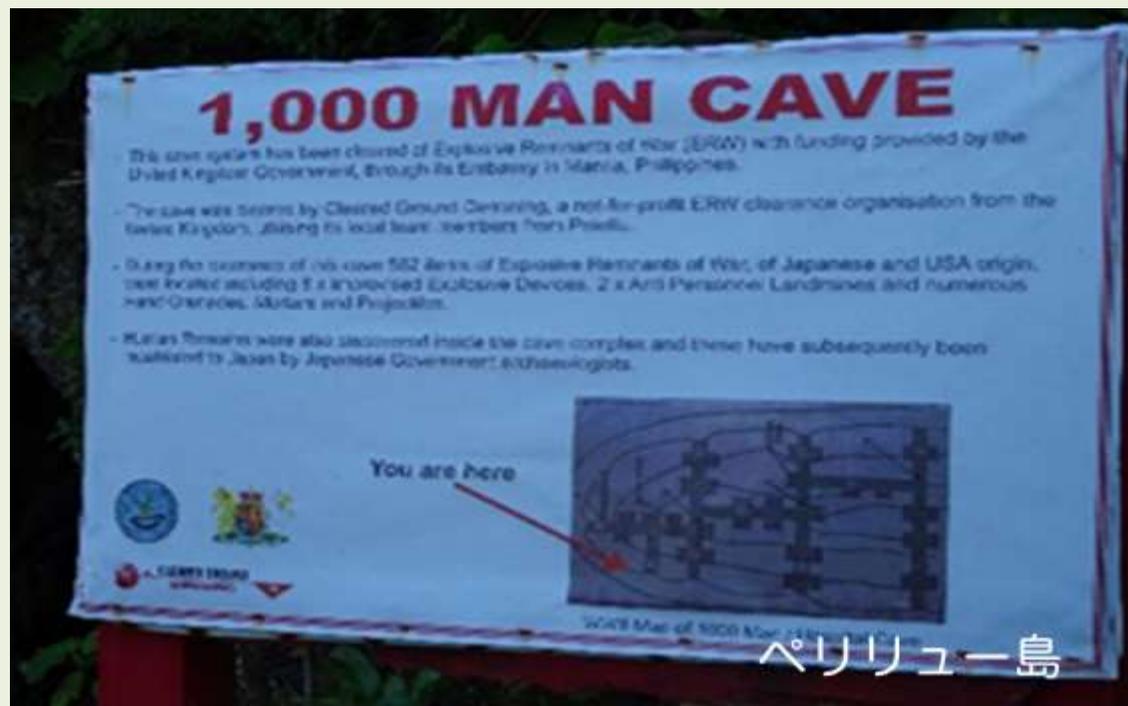
ベラウ国立病院 保健省



在パラオ日本大使館 訪問



ガラルド州でのフィールドワーク



ペリリュー島

2019年 SGH探究甲子園

英語ポスター部門 最優秀賞

- パラオにおける生活スタイルに関連する疾病に取り組むために

To Tackle Lifestyle-related Diseases on Pacific Islands

Kaname Miyasako, Takatsuki Junior and Senior High School



BACKGROUND

PREVIOUS STUDIES ON PACIFIC ISLAND COUNTRIES (PICs)

- Heavy Levels of Non-communicable Diseases (NCDs)
 - Unfavorable Lifestyle Results in NCDs: heart diseases, diabetes, and so on
- Poor Data on NCDs
- A Large Number of Undiagnosed NCDs

Ratio of diabetic people in the total population

Country	Ratio (%)	Country	Ratio (%)
American Samoa	21.0%	Japan	12.0%
Bahamas	18.0%	Marshall Islands	11.0%
Belize	11.0%	Myanmar	10.0%
Bolivia	17.0%	Nepal	10.0%
Costa Rica	16.0%	French Polynesia	10.0%
Cuba	10.0%	Figi	10.0%
Denmark	10.0%	Guam	10.0%
Egypt	10.0%	India	10.0%
Ecuador	10.0%	State of Palestine	10.0%
Maldives (M)	10.0%	Sweden	10.0%
Guatemala	10.0%		

NCD Risc (2014)

METHODS



OBJECTIVE

- To investigate whether PICs take some measures against NCDs
- To identify challenges for the strategies and solutions for them



RESULTS

1 Environmental Intervention

- Policy and Legislation:** Making school parks safe for children (not receiving the opportunities for physical activity for students), making a safe water supply that does not have any possibility of health risks.
- Raising Public Awareness:** Raising public awareness on the importance of taking up healthy lifestyle.
- Changing Person's Behavior:** Developing and implementing a national radio public service marketing campaign to promote regular, moderate physical activity.

2 Lifestyle Intervention

Q: Do you try something to prevent lifestyle-related diseases?

YES 84% (Palau)
YES 70% (Japan)

People in Palau are relatively conscious about lifestyle-related diseases and NCDs.

(Counted by MAFF)
MAFF = Ministry of Agriculture, Forestry, and Fisheries

3 Clinical Intervention

Interview with the Ministry of Health (MOH)

Q: What are challenges of NCDs problem for MOH in terms of collecting data?

One of the biggest challenges now we are facing is ...

If we have conducted regular checkups nationwide, we could detect NCD patient early.

Challenges in NCDs:

- A large number of those who are not diagnosed and uncontrolled.
- Not many are aged.
- There is only one hospital in Palau.

Flowchart: Registration and Control -> Health Checkup -> Uncontrolled and Untreated -> Healthcare Services -> Referral to the Hospital -> Treatment in Hospital

CONCLUSION

- Thanks to NCDs strategies by the government, environmental intervention and lifestyle intervention can be seen. However, clinical improvement cannot be enough recognized through this research.
- The system mentioned above is highly likely to achieve clinical goals. However, further research is required before implementation.

3 本年度のパラオフィールドワーク

本年度の課題

1. コロナ禍において如何にパラオフィールドワークを実施するか
⇒ 12月1日 オンラインでの実施
2. 現地関係者に調査・質問の機会を持つことを依頼できるか
3. オンラインでの環境は大丈夫か

現地との交渉

1. 本フィールドワークを実施するにあたり、現地関係者にコンタクトを取り、適切な会場をセッティングをするよう現地旅行社に依頼する
2. 現地関係者
教育省： Raynold Mechol 学校管理部部長
保健省： Omengkar Wally アドミニストレーター
環境保護協会（NPO）： Bernie Ngiralmau 氏
3. パラオ セントラル ホテル を現地会場に、WiFiの状態を確認する

生徒の研究活動

パラオフィールドワーク事前研修

講師 三田貴 京都産業大学国際関係学部教授

[学位] Ph. D. in Political Science (政治学博士)

[専門分野] 政治学（未来学）、オセアニア地域研究、国際協力論、
共生社会

植民地化と脱植民地化に翻弄されてきた太平洋の島国の人々について、未来学（futures studies）という手法を軸に、現地が持つ課題を、当事者の人々と一緒に考え研究されている。本校とは、アジア・フィールドワーク開始当初からご指導をいただいている。

1. 日時 2020年 8月25日 (火) 5～7 限目

2. 場所 グローバルセミナールームA
図書館アクティブラーニングcommons

3. 目的

高槻高校GAコースの2年次課題研究でおこなうパラオ共和国でのフィールドワーク（今年度はオンラインで実施）に向けた事前学習として、**パラオ共和国の国情・風土・生活文化・歴史・日本との関係など**について学ぶ。本校生徒が、それぞれの課題研究のテーマを設定し、パラオで何を調査できるかを考え、フィールドワークに向けた準備としたい。

4. プログラム

① 企画の趣旨説明・講師先生紹介

② 三田貴先生による事前セミナー

(1) パラオ共和国の歴史

(2) パラオ共和国の社会的課題

(3) 質疑応答

(4) 生徒代表謝辞

③ 本時のまとめ

三田先生の講演で学んだこと、これからの研究などについて記入させ本時のまとめとする

京都大学グローバルヘルス学際ユニット 外国人研究者による課題研究指導の実施

1. 京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットとの高大連携事業として『グローバルセミナー』に来ていただいている京都大学医学部国際保健学講座に在籍されている外国人研究者5名による課題研究指導の実施

- ・ 第1回 10月27日 (火)
- ・ 第2回 11月24日 (火)

- ・ 研究者の方々も決定

外国人研究者

① 環境（災害・観光・水・エネルギー）テーマ担当

Patou Musumari Masika

（男性、医師、医学博士、WHO神戸センター・コンサルタント、コンゴ民主共和国）

Serge Andre Mizerero Jr.

（男性、医師、医学博士課程学生、コンゴ民主共和国）

② 経済（労働・貧困支援） + ③ 生活（食・習慣・肥満）テーマ担当

Anita Ongosi（女性、栄養士、医学博士課程学生、ケニア）

④ 教育（デバイス利用）テーマ担当

June Low（女性、社会健康医学系修士課程学生、マレーシア）

⑤ 健康（病気・医療体制）テーマ担当

Hemant Poudyal（男性、基礎医学、医学博士、白眉センター特定助教、インド）

- 海外研修において体験することができない部分について、国内において担保し、更に良いものとする為の1つの方法として実施する
- 専門的研究者から直にアドバイスをもらい、課題研究の正しい方向付けと共に研究方法等を示唆してもらう
- 研究者自身の母国でのその問題に関する解決への方策を聞き、自己の研究の参考にする
- この機会を通して、英語運用能力の伸長を図る

第1回 京都大学グローバルヘルス学際ユニット 外国人研究者による課題研究指導

発表用テンプレート

1	表紙	内容
2	アウトライン	
3	序論	①研究課題を取り上げた動機 ②その研究の目的・意義・効果
4	先行研究	①先行研究の紹介や整理 ②先行研究の問題点やまだ触れてない分野など
5	研究内容と パラオでの調査内容	①研究方法やアプローチ、現在の研究状況など ②オンラインでどのような質問をしたいのか。
6	結論	自分なりの結論と残された課題
7	参考文献	用いた文献のリストの提示

要 領

- 5グループに分かれて英語にされたテンプレート資料を用いて、自分の研究を英語で説明する。
- 生徒は、
「なぜ研究テーマを選んだのか」
「リサーチクエスチョンは何か（仮説）」
「どのようなことをパラオで調べたいのか」

の3点を軸に、簡潔に説明する準備を行う。

- 研究者の方には、できる限り**生徒たちの英語を「引き出せる」**ように呼びかけてもらう。
- また、各研究者の**母国での状況についての説明**や、**次回までの課題（～について調べてみたら？）**なども助言してもらう。
- 説明と指導を含め、**10～15分程度**をあてる予定。

第2回 京都大学グローバルヘルス学際ユニット 外国人研究者による課題研究指導

- 第1回目で行われた内容を踏まえて、生徒は課題研究を行う。
 - 1) リサーチクエスチョンの妥当性とその仮説
 - 2) パラオフィールドワークでの質問内容について
 - 3) 研究者から出された課題についての実施状況

以上の点に留意しながら、オンラインパラオフィールドワークへの準備とする。

オンラインフィールドワークの流れ 12月1日 13:00~16:30

1. 開会の辞

2. ①教育省 Raynold Mechol 学校管理部部長

・パラオの教育制度について ・Q&A ・生徒挨拶

②保健省 Omengkar Wally アドミニストレーター

・Q&A（生徒から事前に質問を送っておく） ・生徒挨拶

③NPO環境保護協会 Bernie Ngiralmau 氏

・パラオの伝統農業・食生活について ・Q&A ・生徒挨拶

3. 閉会の辞

ご清聴ありがとうございました